



ワッカ原生花園は、網走国定公園にある日本最大の海岸草原。年間3万4000トンの水揚げを誇るホタテ漁業、国内最多の2500カ所余りの堅穴が残る国指定史跡・常呂遺跡、全国に知られるカーリングと並び、5100人の常呂町民の宝だ。

常呂町は91年、草原を横断する町道24キロからマイカーを締めだし散策路とした。年間約4000万円にのぼる国からの道路交付金を返上するというつらい決断だったが、「かけがえのない花園を守り後世に残そう」という強い思いが勝った。

約1万年前、段丘が結ばれて砂州となり、オホーツク海とサロマ湖を隔てた。そして幅200〜700メートル、長さ20キロの草原が生まれた。「地球の造形芸術作品」は面積約700ヘクタール。草原、湿原、砂浜、湿地、樹林地帯があり、多様で豊かな生態系が息づいている。

「ワッカ」は「水があるところ」を意味するアイヌ語の「ワッカ・オ・イ」。こんこんとわき出す泉が草原の生命をはぐくんできた。風が強く、土質の水けが良いため樹木が育たず草原が生まれたという。

春から秋にかけて、色彩と香りの豊かな交響曲を奏でる花は三百数十種。1921（大正10）年6月に訪れた文学者、大町桂月は色とりどりに咲き誇る花と青空に舞う野鳥に心を奪われ、常呂から湧

別に通じる草原の道を「龍宮街道」と命名した。

オホーツク沿岸が海明けする4月下旬、紫色のスミレを序曲に黄色のセンダイハギの群落が春らんまんを奏でる。初夏はオレンジ色のエゾスカシユリ、エゾキスゲ、スズラン、鮮やかな青のムシヤリンドウ、真紅のハマナス。9月に入るとアツケシソウが色づき、紅葉とサロマ湖の夕日に観光客は息をのむ。

草原に隣りあった「ワッカの森」にミズナラ、カシワの大き木が生い茂り、カッコウ、ウグイス、アオサギ、ヒバリなど124種の鳥が鳴き交わす。キタキツネ、エゾシカ、エゾリスも姿を見せる。

「龍宮街道」で潮風を胸いっぱい吸い込み、自転車やペダルを踏み心地よい汗を流す若者。馬車に揺られながら、ゆつくりと花に見入る熟年夫婦。観光客は1年で8万人を超える。

Data

幅200〜700m、約20kmに及ぶ砂州に展開する日本最大の海岸草原で、網走国定公園の区域に指定されている。300種以上の草花が咲き、1991年には植生環境の保全を目的に一般車輛の乗入れが規制された。



●お問合せ先
常呂町経済部産業課観光係
Tel.0152-54-2111
サロマ湖ワッカネイチャーセンター
Tel.0152-54-3434／4月下旬〜10月まで

え、人類の未来を共有するために……

常呂町は98年、町議会の全会一致の採択に基づいて「ワッカ自然環境保全宣言」をした。同町の長谷川京・企画財政課長は「小さな町の大きな誇り。これからも官、民、学が一体で花園を守ります」と語る。

「クリーンアップ・ワッカ」。84年から常呂高校が全生徒で雑草のヨモギ駆除に汗を流す。「ワッカネイチャースクール」を開く常呂小の子供たちは、自然の素晴らしさと環境保護の重要さを学ぶ。

常呂農協青年部は「花と羊のプロジェクト」の名で98年から花園に羊を放牧し、その雑草駆除効果を調査するよう東京農大に依頼した。

「森は恋人・川は仲人」を合言葉に、30年前から常呂川上流の山と流域に植樹を続けているのは常呂漁協婦人部。これまでに約52万本を植え、漁協創立100周年の2012年までに合計100万本とする計画。魚を増やす「魚つき林」の成長を見守る。

原生花園の拠点「ワッカネイチャーセンター」で、植物の写真パネルや「ワッカ・四季紀行」ビデオを観賞できる。同町は常呂遺跡の出土品を展示した「遺跡の館」、縄文・擦文期の復元住居を見学できる「遺跡の森」をセットにして、観光客にアピールする計画だ。